

## 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所名	グループホームゆうわ苑		
所在地	柳井市伊保庄字近長浜1-4		
電話番号	0820-27-6001	事業所番号	3571200231
法人名	社会福祉法人恒和会		

訪問調査日	平成 20 年 1 月 23 日	評価確定日	平成 20 年 5 月 1 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

### 【情報提供票より】

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 7 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	7 人	常勤	6 人 非常勤 1 人 (常勤換算 6.8 人)

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り		造り	
	1 階建ての	1	~	1 階部分

#### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	21,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無	
食費	朝食	200 円	昼食	500 円	
	夕食	500 円	おやつ		円
その他の費用	月額	18,500 円			
	内訳	光熱水費 14,000円	日常生活費	4,500	

#### (4) 利用者の概要 (1月23日現在)

利用者数	9 名		男性	0 名	女性	9 名
	要介護1	1	要介護4	2		
	要介護2	3	要介護5	0		
	要介護3	3	要支援2	0		
年齢	平均	84.7 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 国立病院機構柳井病院、周東総合病院、恵愛会柳井病院 歯科 坪井歯科医院
---------	---

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

#### (優れている点)

毎月、家族へホーム便りと共に、一人ひとりの健康状態、日中の過ごし方、夜間の過ごし方、今月のエピソードなど詳しく書いた報告書を送って喜ばれています。利用者の写真入のホームのカレンダー(6枚組み、毎月のイベント掲載)を作成し、家族にプレゼントされています。味噌汁の準備をする人、盛り付けする人、食器を洗う人、拭く人、棚に収める人など、一人ひとりができることを自然に、積極的にしておられ、書道や貼り絵やテレビ視聴、新聞を読むなど、楽しみながらホームの暮らしができるよう支援されています。

#### (特徴的な取組等)

法人内に人材育成委員会があり、様々な研修を計画され、実施されています。新任者には、新任研修、半年後、1年後、2年後と段階に応じての研修があり、外部研修も勤務の一環として提供されています。

### 【重点項目への取組状況】

#### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

認知症のケアについての研修を実施するなど改善に取り組まれています。苦情相談窓口の全ての外部機関名、第三者委員名を重要事項説明書に記載されていません。

#### (今回の自己評価の取組状況)

複数の職員が話し合っ、おおよその自己評価を行ない、主任が作成した後全職員で検討し、評価とされています。

#### (運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回開催し、地域代表(婦人会長、元ボランティア団体会長、民生委員のお寺の住職)、市職員、家族、ホームの職員の参加があり、事業所の近況報告(行事、入退所、介護度変更など)や、自己・外部評価の報告をしています。地域との交流についての意見交換をされています。

#### (家族との連携状況)

毎月、ホーム便りと詳しく記載された個々の暮らしぶりの報告書を送られています。面会時にも家族から意見を聞いておられますが、年度末には家族と面談の時間を設け、1年間を振り返っての話と、これからの方向性について話し合うなどされています。年1回バスハイクで利用者、家族、職員と一緒に出かけ、楽しめるなど、家族との連携が取れています。

#### (地域との連携状況)

法人主催の納涼祭に600人、げんき祭りに300人など、多くの地域の人々の参加があり、利用者も浴衣を着て参加するなど、地域の人々との交流を楽しまれています。職員が地域のクリーン作戦に参加されたり、小・中学生の訪問や、散歩中に会話をするなど地域との交流に取り組まれています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p>			
<p>1. 理念の共有</p>			
<p>1 (1)</p>	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>法人としての理念「真心」「誠実」「融和」を掲げているが、事業所独自で、地域密着型サービスとしての理念を作っていない。</p>	<p>・地域密着型サービスとしての事業所独自の理念の作成</p>
<p>2 (2)</p>	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員は理念を認識しているが、具体的な理念でないため、日々の実践の中に活かされていない。</p>	<p>・理念の実践に向けた取り組み</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>3 (7)</p>	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>法人主催の納涼祭(600人)、げんき祭り(300人)などの地域交流行事に利用者も参加し、餅つき、バザーなど地域の人々と交流している。職員は地域のクリーン作戦に参加、小・中学生の訪問、散歩中での地域の人との会話など交流している。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>4 (9)</p>	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価は複数の職員で話し合い、主任が作成し、全職員で検討して自己評価としている。前回の外部評価の結果から認知症ケアについての研修を実施するなど、改善に向けて取り組んでいる。</p>	
<p>5 (10)</p>	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回開催し、地域代表(婦人会長、元ボランティア団体会長、寺住職)、市職員、家族の参加があり、事業所の近況報告(行事、入退所、介護度変更など)や、自己・外部評価の報告をしている。地域との交流についての意見交換もしている。</p>	
<p>6 (11)</p>	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>法人を通しての連携や、市担当者との連携も取れている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、行事予定や行事の様子、日常の暮らしぶりの写真などを載せたホーム便り、健康状態、日中・夜間の過ごし方、今月のエピソードなど詳しく書いた報告書を送付している。職員の異動はホーム便りや面会時に伝えている。利用者の様子を写した写真で6枚組みのカレンダーをつくり、年1回、家庭に配っている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の訪問時に声かけし、意見や苦情を聞いている。第三者委員を選任し、事業所の苦情受付担当者と共に、玄関に掲示し、意見箱の設置や苦情対応マニュアルもある。重要事項説明書には、事業者の相談窓口だけの明示であり、外部機関、第三者委員、苦情処理手続きの記載がない。	・定めている第三者委員の明示と周知 ・全ての外部機関の明示と周知
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤6名、非常勤1名を確保し、ミーティングで勤務調整を話し合い、急な休みのときは、職員の勤務交代や主任の対応、法人、他部署からの応援もあり、柔軟な対応をしている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	法人内の異動2名、離職2名、産休1名、新人1名など職員の交代はあったが、1ヶ月程度、離職者と新採用者が重複して勤務したり、利用者への紹介や制服を着ていることでの職員との認識もあり、利用者へのダメージはない。ホーム便りや面会時にも職員の異動を知らせている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内に人材育成委員会があり、様々な研修を計画し実施している。新任者には新任研修、半年後、1年後、2年後と段階に応じての研修があり、外部研修も勤務の一環として参加の機会を提供し、受講者はミーティングで報告している。自己研修には情報の提供をしている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会、岩柳地区グループホーム協会の研究会や交流会に参加し、情報交換をするなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	2~3回本人と家族が事業所を訪問し、10時から15時の間、昼食やおやつを利用者や職員と共にするなど、体験利用をしてもらい馴染めるように工夫している。	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	利用者は介護される一方ではなく、食事の準備、(昼食・夕食の味噌汁作り、おやつ作り)、後片付け、掃除など常に職員と一緒にいる。野菜の切り方、味付け、ホットケーキの卵に少量の塩を入れると良いことなど利用者に教えられ、共に支え合う関係を築いている。	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	日々の関わりの中で、会話や行動から利用者の思いや意向の把握に努め、困難な場合は、家族から情報を得るなど本人本位に検討している。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	本人の意向を尊重し、家族からは面会時や電話で意見を聞き、月1回全職員参加で開催するケアカンファレンスで、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。年1回家族と面談の時間を設け、1年間を振り返っての話と、これからの方向性についての話し合いをしている。	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	3ヵ月毎の評価と見直しのほか、状況に変化があるときは、職員や家族と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	理美容院への送迎や付き添い、緊急時の病院の送迎などを行っている。衣替えなどで利用者が家に服をとり帰るときの付き添い送迎の支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	馴染みのかかりつけ医への受診の支援をしている。基本的には、家族同行の受診となっており、状況を口答で伝えるとともに、バイタルの写し、体調の変化をメモにして家族に渡している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	日常的な医療行為が必要で、グループホームでの生活が困難になった場合は、医療施設などへ入れるよう支援をしている。重度化や終末期に向けた方針についての検討や家族との話し合いはしていない。	・方針の検討と家族などとの話し合い
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	職員が居室に入るときは、声をかけて断ってから入り、トイレや風呂への誘導の声かけにも配慮するなど、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように気をつけている。個人記録は収納ケースに保管している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事や入浴などの基本的な1日の流れは決まっているが、日々、その時々で利用者に合わせた支援をしている。テレビ視聴や新聞を読んだり、職員の音読を聞いたり、習字や貼り絵など、その日の過ごし方を一人ひとりのペースや希望によって支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	副食は法人よりの配食であるが、ご飯や味噌汁の調理、盛り付け、配膳、後片付けなど、利用者と共にしない、同じ食事を一緒に食べて楽しくすごしている。粥食、ミキサー食などの利用者の状態に応じたり、肉や魚など好みにより食材の変更をするなどの支援をしている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日、15時半～18時に可能であり、ほぼ毎日全員が入浴している。誘導して着脱の見守り、風呂の中で支援する人と職員2名が入浴支援している。風呂に柑橘類や家族が持参したバラの花びらを浮かべて、入浴を楽しんでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	テレビ視聴、新聞購読、習字、貼り絵、などの楽しみごとや、味噌汁づくり、盛り付け、配膳、片付け、洗う、拭く、食器棚に納めるなど、一人ひとりが活躍できる場面をつくり、支援している。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や庭の手入れ、併設施設に出かけるなどの支援をしている。月に1度の理容院やスーパーへの買い物、ドライブなどでの外出支援や、年に1回、家族と一緒にバスハイクで楽しめるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関が道路に面していて、危険性が高いという理由で、安全に配慮して終日施錠している。	・鍵をかけない工夫
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・ヒヤリはっと報告書に記録し、ミーティングで検討して共有し、事故防止に取り組んでいる。一人ひとりの状況や気付きを日誌に記録し、ミーティングで検討し、事故を防ぐ為の個別ケアに活かしている。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	看護マニュアルや防災マニュアルを作成し、法人の研修で救急法を学んだり、ミーティングの中で法人の看護師から応急手当や初期対応の方法を学んでいる。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	法人と一緒に火災避難訓練を年2回実施している。地域の消防団と連携し、通報、協力の働きかけをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の目的、副作用、用量、用法については、ファイルを通じて、全職員が把握している。薬剤管理の担当職員を決め、薬はその都度手渡しし、服用を確認している。症状の変化があれば、看護師に相談し、必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	朝食・昼食後は、うがいの支援をしている。夕食後は歯磨きや義歯のブラッシングなどの口腔ケアの支援をし、週3回の義歯の消毒の支援をしている。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	法人からの配食であり、食事量の記録により、個々の栄養バランス・カロリーが把握されている。お粥、ミキサー食、糖尿病食、ダイエット食など、状態に応じて支援している。水分は食後、10時、15時、入浴後、夜間トイレに行った後など、気をつけてこまめに補給の支援をしている。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルがあり、予防を実行している。夜間や朝手すりの消毒をし、トイレは職員が夜間、明け方、朝9時ごろ、汚れがあれば、その都度掃除を徹底し、予防に努めている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	台所、食堂、居間が一つのフロアにあり、畳のスペースもある。味噌汁の具を切る音、ご飯の炊ける匂いがあり、大きな窓から春には満開の桜が眺められ、壁面には季節に合った飾りや小物がかけられ、テーブルに季節の花が生けられるなど、五感に働きかける工夫をしている。廊下にソファがあり、一人ひとりの居場所にも配慮している。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の状態に合わせて、ペットの配置、手すりをつけるなどの配慮をしている。衣装ケース、タンス、ソファ、写真、手づくり作品、生活用品など、使い慣れたものを持ち込み、本人が居心地良く過ごせるよう支援している。本人の好みのものを家に取りに行く支援もしている。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	社会福祉法人 恒和会
所在地	〒742-1352 柳井市 大字伊保庄 近長浜1-4
電話番号	0820(27)6001
開設年月日	平成 13 年 7 月 15 日

## 【サービスの特徴】

高齢者への敬意を込め、お名前は様付けでお呼びしています。家族・職員を含め、大家族で生活しているという考え方の元で必要以上の介護はせず、協力し合うことの大切さ、日々の生活介護の中で言葉、態度で示すようにしています。

## 【実施ユニットの概要】 (10月1日現在)

ユニットの名称	グループホームゆうわ苑			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護1	1	要介護4	2
	要介護2	4	要介護5	0
	要介護3	2	要支援2	0
年齢構成	平均 84.7 歳	最低 75 歳	最高 93 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	一般職員が主体となり、複数の職員が話し合っておおよその評価を実施する。その後職員全体が内容を確認し、再検討する。 評価内容がまとまったところで、運営者に提出、承認を得て評価確定としている。
評価確定日	平成 年 月 日



# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人としての理念は「真心」「誠実」「融和」とし、生きがいを持って生活できるよう支援することを目標としている	グループホーム独自の理念の言語化、具体化
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念はほぼすべての職員が認識している	
3	<b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	法人としての理念を玄関先に提示すると共に、全職員への認識を都度確認している	
4	<b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	書類および口頭での報告、連絡、相談を密にするよう努めている	
5	<b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	住み慣れた地域で暮らすことの大切さ自体は認識されているご家族や地域の方も多く、個別的対応としては協議を重ねている	運営推進会議の活用 家族との話し合い 理念として言語化、具体化
2. 地域との支えあい			
6	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	施設自体が住宅街から離れていることもあり、自治会や部落としての付き合いは無い	運営推進会議の活用
7 (3)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	法人全体で納涼祭、げんき祭など地域との交流行事を主催し、参加している	運営推進会議の活用 日常的な取り組みへの検討
8	<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	法人全体で地域貢献できることは無いか検討している	運営推進会議の活用 関係者との連携

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員で行い、外部評価の結果は、ミーティングで報告している。改善計画の立案や工夫についても、ミーティングで話し合いを重ねている	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議では毎回現状報告をすると共に、地域との交流に重点を置いた話し合いを重ねている	
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	法人の地域連携室を通して話し合い等行っている	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	現在、各制度による支援を必要としている該当者がいないこともあり、学習会や活用についての検討をしたことが無い	今後を見据えて、各関係先との連携や学習会の開催を検討する
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止については努めているが、具体的に防止法について学ぶ機会を設けたことが無い	学習会開催の検討
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行い、書面での契約を行って	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関先に苦情受付担当者を明示すると共に、意見箱を設けている	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月に一度苑便り及び各個人の暮らしぶりを記載した様子報告書を定期的を送付すると共に、個々の報告については急ぎの用件は電話、それ以外のものは面会時に報告している	報告の徹底

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	ここ近年、情報開示を求められたことは無いが、求められればケース記録を提示する予定である		
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	玄関先に苦情受付担当者を明示すると共に、意見箱を設けている。また来苑時には問いかけをし、意見を言いやすい雰囲気作りを心がけている		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングの場で、積極的に意見を求めると共に、日ごろから書類及び口頭での報告、連絡、相談を密にするよう努めている		
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	ミーティングの場で勤務調整について話し合いの場を設けると共に、法人の人事部と連携し、不足時には他部署からの応援体制を整えている		
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	移動や離職については事前の調整、配慮に努めると共に、新しく配属された職員を利用者に紹介する機会を配置後に必ず設けている		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内に人材育成委員会を設け、年間を通じて様々な職員研修を計画的に実施していると共に、外部研修の機会も必要に応じて設けている		
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	経験の浅い職員が多い		経験豊かな職員の配置 現職員の育成
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	協会に加入し、研修や交流会の場には積極的に参加するよう努めている		全職員の積極的な参加 日常的な交流の検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		職員の相談、援助技術向上 他事業所との連携
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になんげに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		日々の生活の中で、食事の準備、片付け、掃除、洗濯、季節の壁飾り作成などあらゆることを共に行い、大家族として一緒に生活をしているという関係作りを念頭に置いている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		アセスメント、カンファレンスの充実
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		アセスメント、カンファレンスの充実 家族との話し合い 職員間の情報共有
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		アセスメント、カンファレンスの充実 職員間の情報共有

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンスにて全職員で話し合い、決めたケア内容をそのまま反映している	アセスメント、カンファレンスの充実 家族との話し合い
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	見直し時期及び、変化が生じた際に、見直し現状に即し計画を作成している	アセスメント、カンファレンスの充実 家族との話し合い
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	行為の事実のみならず、本人の詳しい言動、それに対する職員の対応等を、詳しく個別記録に記入する事で、実践や介護計画に役立てている	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	月に1回以上の行事実施や車での外出、また個別の要望にも出来るだけ応じるなど、小グループだからこそ出来る支援の充実を目指している	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	法人を通じての協働にとどまっている	運営推進会議の活用 関係者との連携
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	法人主体で介護者教室は実施しているが、グループホーム独自による地域への開放はしていない	運営推進会議の活用 関係者との連携
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	グループホームでの生活が難しくなった際の他のサービスに移行する支援、検討を行ったり、個人の福祉用具購入時必要に応じてアドバイスをもらったりしている	他事業所との連携 職員の支援技術向上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		地域包括支援センターとの連携
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		他事業者との連携 家族との話し合い
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		重度化した際の対応についての検討 家族との話し合い
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>日々の関わりの中で言動に配慮すると共に、ケース記録の記入は事務室内にて行うようにしている</p>	<p>個人情報保護についての学習の機会、日々のケアに対する意識の向上</p>
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日々の関わりの中で希望の表出や自己決定が出来るような意図的な声かけをするように努めている</p>	<p>日々のケアに対する意識及び支援技術の向上</p>
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>家事は個人の力に合った役割を分配すると共に、居室の棚や収納ケースにはラベルを張る等家事しやすい環境も工夫している</p>	
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入浴、食事、就寝、起床などの時間帯は大まかに定めているが、その時々希望や体調によりある程度の融通はきかせている</p>	<p>個々のケアの徹底</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>美容院は家族対応で希望の店もしくは、苑対応で市内の店に出掛けている。行事や外出の日には前日から服を選んだり、化粧をしたりと、おめかし気分を味わっている</p>	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>ご飯や味噌汁の調理、盛り付け、食事、後片付け全てを利用者と職員が共に行っている。おかずは法人の厨房から決まった献立が調理済みでもらえるが、アレルギーや好みによる食材の変更、解く熱職、形状の変更も可能となっている</p>	
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>おやつは法人の厨房から決まった献立のものをもっているが、本人の好みやおやつに合う飲み物(コーヒー、紅茶、ココア等)の提供は可能、お酒やタバコは苑の方針で禁止している</p>	
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄の失敗がある方にもなるべくオムツや紙パンツを使用せず、タイミングを見計らってトイレの排泄を促している</p>	



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日15時30分～18時前までと、ある程度時間を定めている		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	一斉に消灯し、就寝時間を促すようなことはせず、ある程度本人に任せたり、体調や生活習慣に合わせて個別に休息や入眠を促している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の準備や後片付け、掃除、洗濯、花の手入れ、工作、縫い物など個人の得意分野をいかせるよう支援している		生活歴や特技の把握 多様な作業が出来る場面作り
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人の金銭所持はトラブルの原因にもなるので、現段階では所持を認めていない。買い物の際には能力に合わせて合計額の計算や支払いを任せるなどの支援をしている		個人の金銭所持 使用についての協議
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	気候が穏やかな日は戸外に出て、散歩や庭の手入れを楽しむと共に、月に1回は備品購入、散発、ドライブなど市街地に出掛ける支援を行っている、車を使用しての外出はその日の希望に沿うことは苑の管理上難しい		個別ケアの徹底
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年に数回のドライブ、また年に1回の家族を交えたバスハイクを企画、四季の楽しめる公園などに出掛けている。また、家族との外出も無理の無い範囲で支援している		利用者の意見の反映
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族の協力も得て、出来る限り電話や手紙の希望には対応している		日常的なやりとりの支援
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	日ごろから訪問しやすい雰囲気作りを心がけると共に、本人の居室でゆったりと談笑できるよう支援している		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	ここ近年付き添い希望は無いが、求められれば前向きに検討していく		方針の明確化

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		身体拘束防止の学習会や、事例検討の開催日々のケアに対する意識の向上
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		アセスメント、カンファレンスの充実
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		マニュアルの定期的な確認、見直し、全職員への訓練の徹底
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		書類の確実な整理と活用 アセスメント、カンファレンスの充実

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31) <b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	法人を通じての協力にとどまっている		運営推進会議の活用 関係者との連携
82 <b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	今後予測される、心身機能の低下やそれに伴うリスクについて説明する機会を設けている		家族との話し合い 職員間の情報共有
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83 <b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタル測定で、一人ひとりの体調チェックを行い、異変の早期発見、対応が出来るように心がけている		
84 (32) <b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	内服中の薬及びその効能や副作用をファイリングし、全職員が把握に努めている。またかかりつけ医及びかかりつけの薬剤師に本人の状態などの情報を知らせている		薬の管理方法の工夫
85 <b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分補給や意図的に体を動かすよう働きかけ予防に努めると共に、排便状況をケース記録やボードにチェックしている		排便チェックの徹底
86 (33) <b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	義歯は毎日夕食後預かりブラッシングし、週3回洗浄液に浸している また、個人の力に合わせて、うがい、歯磨きの支援を行っている		個別のケアの徹底 歯科医との連携
87 (34) <b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量を記録し、大まかな把握に努めると共に、こまめにお茶をすすめ飲水の機会を設けている 摂取状況が少ないときには、かかりつけ医に相談している		記録方法の工夫
88 (35) <b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染予防マニュアルを作成し、取り決めに沿って実行している		マニュアルの定期的な確認、見直し
89 <b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は必要な量だけを厨房からもらうようにしている調理器具は毎日漂白剤での消毒を行い、衛生管理に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関扉に可愛いプレートをつけると共に、玄関に入っすぐの壁紙やカウンターには季節に合った飾りや小物を設置したり、花を生けたりしている	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節に合った壁飾りや小物を設置したり花を生けたりと見た目にも楽しい雰囲気を作り、また音の大きさや照明は利用者の意向を確認しつつ調整している	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間には、家の居間を思わせる様なテレビやソファ、置スペースを設置し、利用者が思い思いに過ごせる様支援している	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みのある小物や小タンスなどの持ち込みは自由で、また壁面なども苑で作成した作品を飾っている ベット、棚、カーテンは備え付けのものを使用している	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	起床後、掃除、シーツ交換時は窓を開けたり、換気をしている また、湿度調節は利用者の体調や意向にあわせ、こまめに行っている	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	床はバリアフリー設計になっている浴室は一般浴槽しかないため一人一人の身体機能に合わせまたぎ越しを支援している	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	風呂にのれん、トイレにプレート、各居室にはネームプレートをつけ、それらの文字を読みながら、自分で目的の室に行ける様に支援している	
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外の公園には季節に合わせた花を植えたり、水遣りをするこ とで、目的を持ち、楽しめるようにしている	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない